

「さまざまな場面でのノートテイクを考える」

広島大学でのノートテイクの現状について

田中芳則

はじめに

広島大学は、全学生数が約 16,000 人の大学であり、広島市内に医学部、歯学部、法学部(夜間主)、東広島市内に文学部、法学部(昼間主)、経済学部、教育学部、総合科学部、理学部、工学部、生物生産学部を有する。そして現在、2名の聴覚障害学生が教育学部に在籍している。広島大学では教養科目を履修する1、2年生は、入学した所属学部に関係なく、教養科目を開設している総合科学部で講義を受けることになっている。そのため、ノートテイクの養成・派遣業務を主に総合科学部に設置されたボランティア活動室で行っている。

ボランティア活動室には、ノートテイクの養成等を担当する専任の情報支援担当教官(1名)と派遣を担当する情報支援コーディネータ(1名)が配置されている。なお、情報支援担当教官は名古屋市にて約3年間、要約筆記奉仕員として手書きおよびパソコンによる要約筆記活動を行っていた人材である。

養成講座について

学内では前期、後期が始まる前にそれぞれ、総合科学部と教育学部で養成講座を開催している。養成講座は、年間予算の関係上、要約筆記サークルに依頼する場合と情報支援担当教官が行う場合がある。平成14年度は以下のとおり開催した。

表1 要約筆記養成講座実施一覧

前期4回

4月4日、5日	総合科学部で開催	広島市要約筆記サークル「おりづる」へ依頼
4月9日	教育学部で開催	
5月2日	総合科学部で開催	広島市要約筆記サークル「おりづる」へ依頼

後期5回

9月27日	総合科学部で開催	
10月5日	総合科学部で開催	東広島市要約筆記サークル「花たば」へ依頼
10月7日	教育学部で開催	
10月9日、10日	総合科学部で開催	

養成講座の内容はノートテイクに特化したもので、さらに1時間に凝縮したものである。なおノートテイクとして活動を希望する学生は必ず1回は養成講座を受講しなくてはならないことにしている。しかし、これは厚生労働省の要約筆記養成カリキュラムから考えると不十分であると言わざるをえない。現在、技術向上のためのフォローアップの時間を設けている。

派遣について

総合科学部に設置されたボランティア活動室の情報支援コーディネータによって派遣が行われている。ノートテイク登録用紙に記載された情報から、一般学生の授業の空き時間を利用して派遣し、ノートテイクしてもらっている。記載された情報で重要なものは、所属学部・専攻名と第2外国語である。ただ、ノートテイクしさえすればよいという時期は過ぎ、すぐれた講義保障を行うために高度な専門性をもつ人材が必要とされ、その上で要約筆記技術をもつことが要求される。

図1 ノートテイク登録用紙

ノートテイクの現状

現在ノートテイクは49名(2002年7月31日現在)である。

もっとも多いのは、教育学部の学生である(表2参照)。ノートテイクとしては、教養科目をすでに取得した学生であることが望ましいが、人材不足のため、同級生がノートテイクする場合もある。

前期には聴覚障害学生2名をあわせて、週に40コマ(1コマ:1時間30分)の授業を受講した。1コマで2名のノートテイクを派遣するので、延べ80名が必要であった。

表2 ノートテイクの概要

所属学部	人数	性別	人数
教育学部	38	男	14
文学部	3	女	35
その他	8		0

要約筆記技術について

養成講座を開催しても、すぐに講義が始まるので、技術向上はなかなか難しい。それと初めてノートテイクに触れる学生も多い。そのため、先に述べたフォローアップの時間を毎日 11:00-15:00 に設定して、学生はその時間帯ならば、いつでも相談や要約筆記の技術向上のための指導が受けられるように情報支援担当教官が待機する体制を取っている。指導を受ける際には、チェックシートを持参してもらうようにしている。このチェックシートは「大学ノートテイク入門」を参考に作成したもので、手書き用とパソコン用を用意した。図2に手書き用チェックシートを示す。

図2 手書き用チェックシート

特に専門用語が多いと思われた授業に関しては、途中からノートテイクの申し出によって、パソコンによるノートテイクに切り替え、単語登録の活用によって講義保障を行った。

パソコンノートテイクで使用されるソフトウェアとしては IPTalk が有名であるが、画面設定以外で文字フォントの大きさを変更できないので、画面を覗いて見ることに問題があった。そこで名古屋地区で使われているソフトウェアの CapInput を使用した。

おわりに

少人数での討論形式の授業、および視聴覚教材を用いた授業でのノートテイクについては、講義保障のための有効な方法は見つかっていない。

参考文献

- (1)甲斐更紗「大学内での講義の情報保障」要約筆記問題研究第12号(2001)
- (2)白澤麻弓「聴覚障害者学生サポートガイドブック」日本医療企画(2002)
- (3)街のラジオ屋さん別室 ～名古屋周辺 PC 要約筆記～
<http://member.nifty.ne.jp/RadioShack/ncc/>
- (4)第7分科会パソコン要約筆記B「パソコン要約筆記の実践」第19回全国要約筆記問題研究集会(岐阜)報告集(2001)

(5)吉川あゆみ、他「大学ノートテイク入門」人間★社(2001)